



Title	地域に根付いた健康づくりを通して
Author(s)	福田, 智
Citation	大阪公衆衛生. 2013, 84, p. 19-19
Version Type	VoR
URL	https://hdl.handle.net/11094/83349
rights	
Note	

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

The University of Osaka

会員の声

地域に根付いた健康づくりを通して

高槻市保健所健康福祉部健康づくり推進課 管理栄養士 福田 智

私は高槻市保健所健康づくり推進課で行政栄養士として勤務し、今年で2年目になります。1年目は、主に特定保健指導や、そのサポート事業である栄養教室を担当しましたが、その他にも出前講座や地区活動、各種イベント、啓発活動など様々な事業に従事させていただきました。私は、入庁するまで行政の仕事に対し多少なりとも受動的な印象を抱いていた部分がありましたが、実際のところ、その内容は多岐に渡るものであり、常に問題意識を持ち、変化する問題点やニーズに合わせて柔軟に対応する必要がありますため、組織として行動するためにも現場で働く個々がしっかりと意見を持ち適切な提案をすることが求められるなど、想像以上に能動的であることが分かりました。今は入庁前よりもやりがいのある仕事であると感じることができています。また、事業を通して、各地区の役員の皆さんや関係団体の皆さんと関わる中で、協働して地域に根付いた健康づくりの基盤を創り上げていくことの楽しさを知りました。事業では外部に出向くことが多く、直接市民の皆さんと接することができるということが私の仕事の楽しみの一つです。しかしながら、その対象は幼児から高齢者、有病者や精神的問題をかかえる人まで幅広く、各々の悩みや問題点、意識や知識も大きく異なるため、最新の健康情報や調理方法などについての幅広い知識はもちろん、コミュニケーション能力やプレゼンテーション能力などの対象者を引きつけるための技術や、限られた時間内に精神状態や生活状況を考慮した適切な支援をするための判断力など、様々なことが求められ、楽しみである一方で自身の力不足、経験不足も感じています。また、集団を対象とする場合は、それがどのような集団なのか、基準をどこに設定するべきか判断に悩みます。不

足している知識は自身で補うことができますが、対象者が悩みを抱えているのであろう介護や子育てなどの経験は補うことができず、知識だけでは十分な支援や共感ができないことが最近の悩みの一つです。しかし、そのような中でも、今、私にできることとして介護者や保護者など多くの経験を積んだ方や、メディアの情報に敏感な方など、人生の先輩である市民の皆さんや関係団体の皆さんと接する中で、様々な経験談や意見を伺い、それを同じような悩みを抱える方への支援へとつなげることで少しでも力になることができればと考え、努めています。このように、私から一方的に発信するのみでなく、業務を通し、その中で出会う方々に私自身が成長させていただけのことを大変ありがたく感じています。まだ補いきれていない部分が大きいです。市民の皆さんにとって身近な存在として、各々の背景に着目した、行動につながる支援ができるよう成長していきたいと考えています。

2年目になり、現在は高槻市の健康増進計画である「第2次・健康たかつき21」の推進チームとして、出前講座などを中心に間断ない食育の推進に取り組んでいます。今までは担当事業内容の改善に努めることが中心でしたが、今後は全体の中での担当事業や私自身の位置付けや役割を考え、組織としての効果的な取り組みに貢献できるように視野を広げて取り組みを進めていきたいと思っています。

健康づくりのための環境整備や無関心層へのアプローチは行政の責務であると共に、行政からできることでもあると考えます。幅広い知識と経験を身に付け、地域に根付いた頼もしい管理栄養士となれるよう、今後も市民の皆さんと共に「食」を楽しみながら、健康づくりのお手伝いを続けていきたいと思っています。